

平成21年度 玄海町立仮屋小学校 学校評価結果

1 学校教育目標
「豊かな心を持ち、自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する児童の育成」

2 学校経営ビジョン	
こんな学校をめざします	笑顔と自信に満ちあふれる楽しい学校 生き生きと学び合い成長する学校 挨拶の音が響き合い清潔感あふれる学校
こんな教師をめざします	子どもの目線に立ち、個性を伸ばす人間性豊かな教師 子どもの能力を伸ばす力を常に高め続ける教師 信頼し合い、協働する教師
こんな児童を育てます	体を鍛え健康で明るい子ども 分かるうと自ら進んで学ぶ子ども 思いやりのある子ども

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1)「確かな学力の向上を図る」ために、基礎基本の定着を図る指導方法の工夫改善を行うとともに、国や県、学校の学力検査の結果分析を指導や学習に反映させる。 (2)「豊かな心を育てる」ために、元気なあいさつと返事を年間重点目標とし、思いやりの心を育てる道徳の指導充実を図る。 (3)「たくましい体を育てる」ために、『早寝・早起き・朝ご飯』を徹底させ、基本的な生活習慣を身につけさせる。また、給食の好き嫌いを減らしたり、外遊びを奨励したりして、体力の向上を図る。 (4)閉校に向けた思い出づくりをするとともに統合への意欲を高める。	・前年度は、家庭と連携することによって家庭学習の定着が向上し、基礎基本の定着につながった。しかし、自分の思いを十分に表現できない児童が多い。全教科・領域で言語活動の充実を図るなどして活用する力をつけさせたい。また、小規模校の利点を生かし、児童の出番を増やすことでやる気と自信をつけさせたい。 ・健康とくらしチェックカードの見直しを行い、基本的な生活習慣の更なる定着を図っていく。

5 総括表					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	
学校運営	学校経営方針	学校教育目標の周知	教職員、児童、保護者に周知し、認知度を75%以上にする。	A	アンケートの結果「知っている・だいたい知っている」割合が保護者及び児童共に90%を超えた。
	開かれた学校づくり	保護者や地域との連携 家庭や地域への情報発信	授業参観や学校行事への保護者出席率を80%以上にする。 学校での子どもたちの様子を家庭や地域に周知する。	A	保護者出席率は82.3%で目標値を超えた。学校からの情報発信も月2回の学校便り発行やHPの随時更新ができた。
		閉校記念事業の実施	閉校記念事業を保護者や地域の方と連携し成功させる。	A	実行委員会を組織し、区長さんや歴代育友会会長さんを中心に事業に取り組んだ。
	教職員の資質の向上	職員研修の充実 授業研究の推進	各種研修会を行う。 児童の実態に応じた授業研究、理論研究を行い、全員公開授業を行う。 一人1回以上は研究会やセンター講座に参加する。	B	校内の研修会は夏期休業中を中心に計画通り行うことができた。講師を招聘しての授業研究会は充実した内容となった。
教育活動	危機管理体制	危機管理マニュアルの周知徹底 緊急時の安全対策の確立	危機管理マニュアルに基づく行動パターンを周知する。 危機管理に関する校内研修を学期に1回以上行う。 定期かつ臨時の安全点検を実施し、児童の安全確保に努める。	B	危機管理手引きの見直しを行い、研修会で周知を行った。安全点検は定期・臨時に実施し、実態に応じた対応ができた。
			学力向上	指導方法の工夫改善	CRT検査(国・算)を学年末に実施し、「C」段階を全国水準より減らす。 家庭での学習習慣の定着を図る。

	「話す力」「聴く力」の向上	自分の思いや願いを伝える工夫をし、自分の考えを表現できるようにする。	B	校内研究で取り組んだ指導法や理論が日頃の授業に生かされ、一人一人の表現力が向上してきた。
	読書活動の充実	全校朝読書に努め、学年に応じた図書に親しませる。 年間個人図書貸出し冊数を、低学年60冊以上、中学年70冊以上、高学年60冊以上にする。	B	毎週月曜日に朝読書の日を設け実施することができた。年間個人図書貸出し冊数は、2月末の段階で低学年61冊、中学年66冊、高学年95冊となった。
心の教育	道徳の授業の充実 人権・同和教育の推進	「いじめ」のない学級の評価点を80以上にする。 人権や命に関わる授業づくりを行う。 保護者が参加、参観する道徳の授業を年1回以上実施する。	A	アンケートによる保護者や児童の評価点は81を超えた。また、人権集会を通して「いじめ」に対する意識が変わってきた。 保護者参観の道徳授業公開は実施できた。
	教育相談の充実	児童の相談に適切に対応する。 子どもの安心安全な居場所づくりに努める。 保護者から相談しやすい関係づくりに努める。	B	担任は児童や保護者からの相談には迅速に且つ丁寧に対応した。
健康・体づくり	歯磨きの習慣化	食後の歯磨きの習慣化を図る。 毎食後歯磨きをする学校評価得点を90以上にする。	B	養護教諭及び歯科衛生師による歯磨き指導により意識が高まった。給食後の歯磨きはほぼ100%達成できているが、学校評価点は71点であった。
	食育の推進	朝食摂取率を95%以上にする。 食に関心を持たせ、好き嫌いを減らす。	A	健康とくらしチェックカードによると、朝食摂取率は100%に近い。給食をがんばって食べる児童が増えてきた。
生徒指導	元気な挨拶や返事の徹底	挨拶や返事を進んで元気よく行うことができる学校評価得点を75以上にする。	B	保護者アンケートの結果、「よくできていると思う」は38%である。時期や相手によって挨拶に元気がなかったり、声が小さかったりした。学校評価点も74点であった。
	校内の環境美化	ゴミのない美しい学校をめざす。 教室環境の充実を図る。	B	ゴミを捨ててはいけないという意識の高まりは見られる。掃除は少ない人数でがんばるが、行き届かない。教室の環境整備は、児童の学習の足跡や意欲が表れるよう工夫した。
小学校低学年の学習環境の改善充実	基本的な生活習慣の定着	早寝・早起き・朝ご飯を徹底する。 ゲームとテレビの時間の約束を守らせる。 あいさつをする。	B	健康とくらしチェックカードを通して、基本的な生活習慣の定着に向け家庭と連携して取り組むことができた。
	基本的な学習習慣の定着	時間を守る 返事をする。 宿題をきちんとする。 学習用具の準備をする。	B	宿題はほとんどの児童ができている。 返事をしたり時間を守ったりすることはできるようになった。学習用具の忘れ物がなかなかなくなる。

6 総合評価

仮屋小学校最後の一年間ということで、学校行事や学習指導を丁寧且つ大胆に取り組んできた。その結果、職員の協力体制がさらに強まり、意識の向上につながった。
地域と一体となった取り組みが増えたことで、地域の協力や支援のありがたさを感じることができたと共に、地域の学校としての存在を示すことができた。
児童も地域への感謝の気持ちをいまくことができた。

7 来年度の改善策

新しい有徳小学校では、多くなった児童数の中で仮屋小での学びや体験を生かし、仲良くがんばっていこうとする気持ちを高めたい。
教育相談の充実を図り、児童一人一人の声に耳をしっかりと傾けたり、励ましの声かけをしたりして、統合後の児童の不安感を取り除く。
広くなる校区で交通事故防止等の安全指導に力を入れる。
新しいPTA組織の中で保護者との連携・協力を深める。